

人権委員さんの声

皆さんは世の中の動向に、目が向いていますか？

戦争はどうして起こるのだろうか。戦争をして何かいいことはあるのだろうか。戦争に関して考えるといつもこのようなことを考へます。

現在日本は戦争もなく、衛生的で治安も良いと思います。しかし、アフリカ地方では戦争が毎日起こっています。その紛争の中では、奪われるべきでない罪なき命がたくさん奪われていきます。もしくは、紛争地域で、貧しい生活を送っている人もいます。その中には病院に行くお金もなく苦しんでいる人たちがいます。そんな人たちのために、私たちにもできることがあると思います。例えば募金などです。自分の欲しいものだけに、お金を使うのではなく、困っている人たちのために、お金を使うということも手助けの第一歩だとも思います。できることを少しずつ、小さなことから始めるべきだと思います。

近頃、日本国内でスポーツの試合を観る。観客や、プレーする選手の差別的行為が人権を侵害するとして、問題視されている。

特に多いと感じるのは、日本でプレーする外国人選手に対しての侮辱行為だ。主には、SNSを利用した書き込みや、試合会場での言動が根源で問題が起こることが多い。どうしてこのようなことが起こってしまったのか。勝ちたい気持ちが行き過ぎてしまうからなのか。同じスポーツを楽しむ一員として認められないかなのか。真意は分からないが、このまま問題が続くようであるのなら、スポーツの良いところがなくなるように思えて残念だ。

私はスポーツは世界中の人と共有でき、楽しみ合える素晴らしいものだと思う。今後このような問題が起きないようにするために、フェアプレーを忘れず、その場にいる全員がスポーツを全力で楽しむという心掛けが、スポーツをする上で大切なことだと思う。

僕は外国人差別を見たことがある。外国人だからという理由だけで、その人のことを避けたり嫌がったりする人を見た。僕は小学校の頃クラスに外国人がいたので、外国人を見て差別することはなかったが、自分と肌の色などが違うから、話す言語が違うからというだけで差別する人がいる。それだけに差別するのはあまりにもひどいと思う。

そういう差別をなくしていくためには学校のALTをはじめとする外国人との交流を、小学校、中学校、高等学校で積極的にしていくことが大切である。人は自分と違う人に初めて出会ったときに困惑し、拒絶するかもしれない。世界にはいろいろな国があって、いろいろな文化があって、容姿も、考え方も、多種多様だ。自分と違う人がいるのは当然だ。外国人との交流をとおして、僕たちはそのことを早く認識しなければならぬ。そうすることで外国人差別は十分に防ぐことができるのだと思う。

「いじめ」「差別」などという言葉を聞いて、良いイメージがあると言う人はいないと思います。世の中にはさまざまな人権問題が存在しています。部落差別、外国人差別、女性差別などです。テレビを見ていると、そういった問題をなくそうと言っている場面をたびたび目にしますが、逆に、最近では「モラルハラスメント」「パワーハラスメント」など、減らずどころか、増えていつているものもあるようです。とても嘆かわしいことです。これはもう、ただ「いじめをなくそう」「差別をなくそう」と言い続けていくだけではなく、なぜなくならないのか、どうしたらなくなることができ

るのかを一人一人が真剣に考え、話し合うことの重要さが問われる問題だと思えます。私もこの人権新聞を書くことをとおして、人権問題について深く考える良い機会になりました。

人権教育県外研修 参加者募集集中！ いざ、京都大学へ

平成29年9月17日 市高発表



毎年恒例の京大研修の時期が近づいてきました。今年も昨年に引き続き、生徒・保護者・教員でバスに乗って研修に行きたいと思っています。毎年、台風の動きにはハラハラさせられますが、市高生からは多数の申込みがあり、無事実施されました。今年も、奮って参加しましょう。

たオープンキャンパスにもなります。日程は、市高を七時に出発、十時からシンポジウム、十二時から昼食を兼ねた学校案内となり、十四時から博物館を見学、十五時から四条を自由行動して、十七時に京都を出発

して帰ってくる予定です。ちなみに、私の京大土産おすすめナンバー1は、「総長カレー」六三〇円です。ちよつと高級ですが、レトルトとは思えぬ抜群の風味と肉の量です。

人権教育主事



近年は、夏休み中の実施ではなく、市高祭が終わった後、秋の涼しさを感じる九月後半に研修に出かけています。この時期に、京都大学の雰囲気や、京都の町並みを見に行ってみませんか？市高の卒業生による校内案内もあり、ちよつとし

301HR 人権委員

301HR 人権委員

302HR 人権委員

302HR 人権委員